

10  
月



# 美園小だより

平成29年9月29日  
さいたま市立美園小学校  
第78号 児童数1,373名  
Tel 048(812)6611  
Fax 048(878)6660

子どもの夢を育てる

教頭 川添 倫義

いよいよ十月。神無月である。月も美しい。夏が厳しかったので秋がひと際印象深い。平成29年度も下半期になる。教育課程の実践もおかげさまで順調に進んでいる。子どもたちはひとまわり大きくなり、だいぶたくましくなってきた。学力も着実に伸びている。

子どもたちから力をもらおうとよく言うが、美園小の子どもたちとあいさつをしたり話をしたりすると、元気が出てくる。そして何とか子どもたちの夢や目標の実現のために応援したいと思う。ニュースではいじめとか虐待とか悲惨な事件が取り上げられているが、極端な一面だけを強調するのは、本来の教育をゆがめる恐れがある。本来、学校や家庭は安全なところ、楽しいところであり、夢を育てるところである。

先日、文庫本で宮沢賢治の「よだかの星」を読んだ。いろいろな解釈があるが、よだかはそもそも星になりたかったわけではない。賢治は自分の夢や希望を叶え、永遠に輝き続ける星を夜空に光らせることで、人々に生きる支えを生み出そうとしたのだと考える。カシオペア座は、季節に関わらず北の夜空に輝き続ける星座である。

この文章を書き終わった後、館岩自然の教室へ宿泊学習に出かける。5年生の子どもたちとともに、そんな思いを馳せながら館岩の夜空を眺めることを楽しみにしている。

読書の秋でもある。読書はたくさんの知識が身につくことはもとより、心が耕され、心豊かな人間性が育てられる。ゲームとは違う想像性も身につく。想像は創造に繋がる。

また、読書は習慣でもある。いちど身につけると、自然に読書をすることができるようになる。では、どのようにしてその習慣を身につけさせるか。

やはり、読書する環境の中で身につけることに他ならないのではないか。学校や家庭で本を読んでいる人がいけば自然と関心を持つようになる。学校の読書の時間には誰でも自然と読書をする。子どもたちを読書する環境の中に少しでも長く置きたい。

下半期も地域・家庭と一緒に温かく信頼される学校づくりを進めたい。

学校行事や地域の行事でいろいろなご支援をいただくことも多くありますが、下半期もどうぞよろしくお願いいたします。

